

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立上尾特別支援学校)

目指す学校像	キャリア教育を推進し、豊かに生きる力を育てる学校
--------	--------------------------

重点目標	1 個に応じた授業づくりとキャリア教育の視点を生かした教育課程の編成・実施による質の高い学校教育の充実 2 地域との連携とセンター的機能の充実 3 安心安全な学校づくりの推進 (危機管理、不祥事防止と教職員の働き方)
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		実 施 日 令 和 2 年 2 月 2 7 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	[現状]新学習指導要領の内容を踏まえた学校教育目標、目指す学校像、学部目標の検討が進んでいない状況である。[課題]新学習指導要領が示す資質・能力を手掛かりに学校教育目標、目指す学校像及び学部目標を設定する。	○学習指導要領に基づいた学校教育目標、目指す学校像、学部間の連続性のある学部目標の設定	①学習指導要領の趣旨に基づいて現在の学校教育目標、学部目標の考え方を見直し、必要な部分は変更または新たに設定する。(12月)【研究部・教務部・学部】	①新学習指導要領をもとに、教職員の意向を踏まえた学校教育目標、目指す学校像と学部間の連続性のある学部目標を設定することができたか。	<予定通り進めることができた> ①新学習指導要領についての研修会を7/11に実施。10/4は学校教育目標についての研修会・アンケートを実施し、全職員で共通理解、意見集約を図った。学部目標も含め、3月の職員会議で決定する。	A	○学校教育目標及び学部目標については計画通り進めることができた。今後は「主体的・対話的で深い学び」についての研修を深め、実際の授業実践に落とし込み、効果的な実践を実施し、本校の実績として積み上げることが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた支援が行われていて手厚い指導を行っている。 自閉症指導はとても大切だと思う。今は発達障害の児童生徒が増えてきているので、その観点も大切にして欲しい。 台風19号対応をしていてコミュニケーション能力の向上はとても大切だと感じた。SOSを出せる力をつけさせたい。
	[現状]「主体的・対話的で深い学び」の視点・観点を取り入れた授業づくりにおける各学部の課題を整理した。[課題]「主体的・対話的で深い学び」の視点・観点をういた授業を各学部の課題をもとにより深める。	○「主体的・対話的で深い学び」の視点・観点を生かした実践の構築並びに教育課程の見直し	①1年目の実践課題をもとに授業研究を行い、検証し、学部間の情報交換をしながら本校としての実践をまとめる。(3月) ②現状の教育課程を見直し、次年度に向けて整理する。(3月)【研究部・学部】	①授業研究等を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点・観点を取り入れた実践を整理することができたか。 ②新学習指導要領に則って教育内容の見直しをすることができたか。	<計画通りだったが整理は途中> ①②新学習指導要領研修と同時に「主体的・対話的で深い学び」についての研修会を行った。さらに学部単位での研修会を5回行った。実践の整理はまだ取り組んでいる途中である。教育内容の見直しは行っている。	B	○来年度以降は、自閉症の指導に注力していきたい。	
2	[現状]交流活動など、地域とのつながりを生かした学習活動を進めており成果が見られている。高等部で新たな地域と連携した取組を始めた。[課題]共同・交流学习の内容について相手校との検討を深め、さらに充実させるとともに、地域に出ていく活動を広げる。また、オリンピック・パラリンピックをはじめ日本の国際化を見据え、他国の文化に触れ、理解する態度を育成する	○地域とのつながりや地域での活動を大切にしたい教育活動の構築及び国際化を見据えた教育活動の構築	①相手校との連携を十分に図り、本校にとってより有意義な共同・交流学习を行う。(小4回中2回、高1回実施。) 【学部】 ②地域で継続的に活動できる機会と活動場所を拡大する。 【学部・進路指導部】 ③大学等と連携し、外国人教育実習生、外国人ボランティアを受け入れる。 【学部】	①交流した両校にとって有意義となる交流活動を実施することができたか。 ②地域の理解を得て、校外で活動する機会と場所を広げることができたか。 ③大学と連携し、外国人を受け入れることができたか。また外国人を活用して他国の文化に触れる授業ができたか。	<計画通り効果的に実施できた> ①小学部は6/20,10/21,12/17、中学部は6/13,1/24、高等部は6/21に実施。小学部は2/5に4回目、中学部は2/12に上尾高校と拓かれた教育課程として実施予定。 ②地域企業と連携を図り、高等部生徒が職業の授業で7/17,9/25に就業体験を行った。この後2/5,12に実施予定。 ③6/24~7/5に実習生を受け入れた。またALTボランティアとして7/9,12/10,24に中高で実施。	A	○交流は計画通り実施できた。今後も継続して行っていく。また中学部の新たな取組が定着できるように、来年度以降もこの取組が両校にとって有意義であることを確認して、計画していく。外国人ボランティアについては近隣の大学とより連携を深める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の支援学級や小中学校と連携を図り、包括的に児童生徒を見られると良い。 特別支援学校がセンター的機能を発揮して、小中学校の教育力向上に寄与するとよりうまくいくと思われる。 医療的ケアの対応が必要なお子さんも施設には通っているの、医ケの児が入学することも予想される。
	[現状]巡回相談の方法の見直しからコーディネーターの支援件数が若干減少しているが、内容の充実力を入れている。ケース会の必要性が高い。[課題]外部機関との連携及び校内外の支援をより進める必要がある。	○校外支援体制の充実	①丁寧な巡回相談やケース会等の実施と校外支援の情報共有並びに個々の課題への対応を行う。 【支援部・校内支援委員会】	①近隣諸学校並びに校内において、質・量ともに適切な支援と情報の共有ができたか。(巡回訪問は目標300件、校内支援委員会は10回以上。)	<関係機関からの信頼も深まった> ①小学校においては相談件数を1回につき3件と絞ったため、相談件数としては250件程度に減少しているが、その分丁寧な巡回相談が行えた。また校内支援委員会10回開催し、情報共有に努めた。	A	○関係機関とよりよい信頼関係が構築できた。来年度以降も丁寧な巡回相談を実施し、より深い信頼関係を築いていく。	
3	[現状]ヒヤリハット情報共有等の緊急時に向けた取組と防災への危機対応について整備をしている。[課題]ヒヤリハットの情報共有と危機管理マニュアルの再整備を通して、危機管理意識の向上を図る。	○危機管理マニュアルの再整備と緊急時対応への意識啓発の実施	①ヒヤリハット報告書を活用し、情報提供を行う。 ②危機管理マニュアルの変更が必要な箇所を整備するとともに避難訓練、引き渡し訓練等を実施する。 【保健部・防災管理部】	①次に生きるヒヤリハットの周知が十分できたか。 ②危機管理マニュアルを現状に合わせて変えることができたか。 ③実際の避難、引き渡しへの意識の高まりが見られたか。	<来年度も進めていく> ①事故報告を含め10あった。今後もヒヤリハットの意義を周知する。 ②防災管理部を中心にマニュアル改定に向けて取り組んでいる。 ③引き渡し訓練への保護者の協力が得られている。	B	○ヒヤリハットの意義を職員に周知し、より意識してもらい、学校の安全性を高めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットや事故報告の内容が気になる。安全な学校を目指してほしい。 若い先生の教育力向上が課題ではないか。学校全体で取り組んでほしい。
	[現状]勤務終了時間以外にも仕事をしている教職員が多い。教職員の不祥事が起こらないように留意している。[課題]教職員のワークライフバランス並びに不祥事防止への意識向上を図る。	○児童生徒への真摯な対応の醸成と教職員事故への注意喚起と働き方の見直し	①不祥事防止研修を2回と日頃からの注意喚起を行う。 ②児童生徒の丁寧な呼び方を定着させる。 ③仕事の小さな削減、学校閉庁日の設定(8月)、ふれあいデーの定時退勤推奨を行う。 【学部・分掌・衛生委員会】	①不祥事根絶に向けた教職員の意識付けができたか。 ②教職員の「○○さん」という呼び方が定着したか。 ③必要性の有無を確認したうえで、仕事の削減を実施できたか。 ③学校閉庁日(8月)の設定とふれあいデーの状況確認。	<不祥事防止の意識づけはできた> ①研修会を2回実施できた。また、機会あるごとに呼びかけを行った。 ②管理職が率先して行っている。 ③短期、中長期に分けて職員から意見を集約し、取り組んでいる。 ③学校閉庁日は8月に4日間設定した。ふれあいデーはサーバーアップデートを行い、定時退勤を促した。	B	○引き渡し訓練を継続し、さらなる保護者の意識向上に努めていく。 ○中長期の改善・削減取組を確実に実施していく。 ○サーバーアップデートを行い、ふれあいデー定時退勤を着実に進めていく。	